

本市スポーツの理念と方向性

1 総合計画におけるスポーツ分野

総合計画では、目指すまちの将来像「幸せ実感都市『ながの』～“オールながの”で未来を創造しよう～」を実現するために 22 の政策を設定しています。本計画は、教育・文化分野の政策である、

『スポーツを軸としたまちづくりの推進』

を具体化する個別計画です。

2 基本理念

スポーツは、体を動かすことそのものを楽しむということに加えて、健康を増進する、まちへの誇りと愛着を高める、交流人口を増やす、地域経済を活性化する等、まちづくりの視点において多面的な効果を有しています。

このような効果を高めることで、スポーツ分野から総合計画が目指すまちの将来像の実現に寄与していくことを目指して、基本理念を以下のように設定します。

『スポーツの力で未来をつくるまち NAGANO』

〈目指す姿〉

市民一人ひとりが、自分に合った関わり方（「する」、「観る」、「支える」）でスポーツを楽しんでいる状態を目指します。

また、そのような活動が集まることで、健康寿命が延伸され、まちへの誇りと愛着が高まり、交流人口が増え、地域経済が活性化している状態を目指します。

3 基本理念の実現に向けた本市の特徴

(1) オリンピック・パラリンピックムーブメント

本市は、長野オリンピック・パラリンピックを開催したことによる有形無形の財産を有する、という独自の特徴があります。

日本オリンピック委員会との「パートナー都市協定」、充実したスポーツ施設群、スポーツを支える市民等、スポーツ活動の基盤となる本市ならではの資源を活かした施策を展開していくことが求められます。

(2) 地域密着型プロスポーツチーム

本市では、4つの地域密着型プロスポーツチーム（長野パルセイロ、長野パルセイロレディース、ボアルース長野フットサルクラブ、信州ブレイブウォリアーズ）が活動しています。

地域に根差した活動を展開しながら、スポーツ人口を増やすことに取り組むプロチームと十分に連携し、プロチームがあることの強み（人材・ノウハウの蓄積、情報発信力等）を活かした施策を展開していくことが求められます。

4 本市のスポーツ施策の方向性

(1) だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進

市民がそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、スポーツに親しむことができる環境を維持・充実していくことが求められます。また、スポーツを通じて共生社会の実現に寄与していくことも重要です。さらに、本市のスポーツ環境全体に活力を生み出すため、各種競技スポーツの普及と競技力の向上に関する取り組みも重要

① スポーツ人口の拡大

多様なスポーツプログラムを通じて、市民がスポーツに親しむきっかけづくりを推進します。また、習慣化に向けて、世代に応じたスポーツに関する情報の発信を強化していきます。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・市内の運動・スポーツ人口は横ばいである。・台風災害やコロナ禍でスポーツをする環境が制限される中、スポーツ実施率を維持できたのは、市民アンケートの結果から身近で気軽に実施できる運動を行ったと捉えることができる。・市民の多くは「運動・スポーツは大切なもの」と捉えている。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・スポーツをするきっかけづくり、習慣化に向けた情報発信、スポーツ施設の有効活用。・子どもは、遊びなどからスポーツへの興味を引き出し、継続したスポーツ活動へつなげていく。・大人には、多様化するニーズ（「個人で自由に」「思い立った時に、気軽に実施したい」等）に対応したコンテンツを提供していく。
---	---

② 地域における自主的なスポーツ活動の促進

総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員を通じて、地域における自主的なスポーツ活動を促進します。また、スポーツ活動の満足度や運動効果を高めるための支援を推進します。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・世代や体力に応じたスポーツや運動の普及には、居住エリアに近い場所でスポーツをする場を増やしていくことが重要。・総合型地域スポーツクラブの会員数は縮小しているが、参加意向は45.0%となっている。・地域のスポーツ活動を促進するためには、スポーツ推進委員を養成するとともに、公民館等と連携しながら草の根的な広がりをつくっていくことが重要となる。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・総合型地域スポーツクラブの認知度を高めながら、活動への参加者を増やす。・スポーツ推進委員を通じた各地域のスポーツ活動を充実する。
--	--

③ スポーツを通じた共生社会の実現

健康づくり施策、高齢者福祉施策、教育施策等と連携しながら、スポーツを通じた健康増進や健康寿命延伸に資する取り組みを推進します。また、スポーツという観点から、障害者スポーツの普及及び理解を一層深める取り組みを推進します。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・本市の高齢化率は、全国に比べると若干高い状態。・健康寿命の延伸や社会保障費の抑制等の観点から、スポーツの健康増進効果の重要性が高まっている。その際、健康づくり分野、高齢者福祉分野との連携が重要となる。・障害者スポーツに関わったことがある市民は11.2%にとどまっている。障害者スポーツの体験会やイベントの普及・啓発効果を高めるためには、これまで関わったことのない市民に向けての情報発信を強化していく必要がある。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・エビデンスに基づく運動による健康づくりの推進。・障害者スポーツイベントの開催、情報発信の強化。
---	---

④ 競技スポーツの普及と競技力の向上

市スポーツ協会との連携により、競技団体の運営基盤の強化、自主的な活動の支援、各種競技の普及、タレント発掘、選手育成を推進します。また、スケート競技の拠点化を推進します。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・スケートを中心に全国大会や国際大会で入賞するアスリートが増えてきている。市民の誇りと喜びとなり、本市のスポーツ環境全体に活力を生み出している。・国民スポーツ大会に向け各種競技スポーツの人口拡大、指導者の育成、競技団体の運営基盤の強化が求められる。その際、取組の実施計画を立て、成果を評価する等、効果的な施策にしていくための工夫も求められる。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・競技団体の運営基盤の強化。・国民スポーツ大会に向けた競技力の向上。
---	---

⑤ スポーツ施設の適正配置・長寿命化と管理・運営

スポーツ施設の適正配置・長寿命化を計画的に進めます。また、利用者ニーズを踏まえ、誰もが使いやすい環境づくりに取り組みます。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・人口減少社会の中で、公共施設の適正配置、長寿命化の必要性が高まっている。長野市公共施設等総合管理計画に沿って、適切に適正配置、長寿命化等を進めていく必要がある。・適正配置によって、スポーツ人口が減らないよう、他のスポーツ振興施策を組み合わせながら、スポーツ活動の場の確保に十分に配慮していくことが求められる。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・スポーツ施設の適正配置、長寿命化を進める。・地域におけるスポーツ活動の場の確保。・利用にあたっての利便性の向上。
---	---

(2) スポーツを通じた交流拡大の推進

スポーツにより、市民の本市に対する誇りと愛着を高め、さらに交流人口を増やしていくために、プロスポーツとの連携やオリンピック・パラリンピック開催都市である本市が有する有形無形のスポーツ資源の活用が求められます。

① 地域密着型プロスポーツチームとの連携の推進

連携推進ビジョンに基づき地域密着型プロスポーツチームとの協働による地域の活性化を推進します。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・地域密着型プロスポーツチームとの様々な連携事業を実施している。一方で、AC長野パルセイロのホームゲームが行われる南長野運動公園総合球技場の入場者数は年々減少傾向にある(R1~2は台風災害やコロナ禍の影響が考えられる)。・連携事業で互いが目指す成果を見える化するとともに、成果をあげるために、選択と集中の考え方で事業内容を精査していく必要がある。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・スポーツ推進計画と連動した地域密着型プロスポーツチームとの連携推進ビジョンの策定。・連携推進ビジョンへの指標設定とPDCAサイクルをまわす取り組みの徹底。・アウェイツーリズムの充実。
---	--

② 国際大会や全国大会などの誘致・開催

大規模スポーツ施設を活用した、国際大会や全国大会などの誘致・開催、長野マラソンや全国中学校スケート大会の継続開催などを通して、交流人口の拡大を促進します。また、2028年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催準備に取り組みます。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・大規模施設が活用され国際大会・全国大会が毎年開催されている。・大会・スポーツイベント等の誘致が継続的に実施できる体制が整っている。アフターコロナを見据えて、今後も誘致を行っていくことが求められる。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・国際大会・全国大会の継続的な誘致・開催。
---	---

③ オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進

オリンピック・パラリンピックの資産を活用しながら、オリンピック・パラリンピックムーブメントを継承していきます。

■前回までの議論

【現状と課題】 <ul style="list-style-type: none">・オリンピック教室が毎年開催され、延べ受講者数が増えている。・オリンピックデーランが毎年開催されている。	【今後の方向性】 <ul style="list-style-type: none">・JOCと締結した「パートナー都市協定」を活用し、オリンピックムーブメントを推進する。
--	---